

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第7号と第8号については最新の台風予報を参照。
- 29日は、前線が日本の南から沖縄付近にのび、高気圧が日本海と日本の東で移動する。
- 30日から7月3日にかけて、高気圧は日本のはるか東に移動し、前線が本州南岸付近にのびる。太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

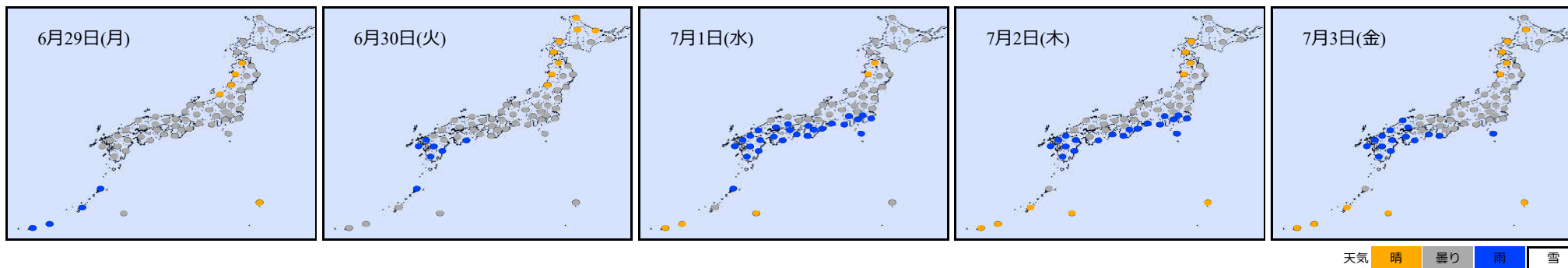
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

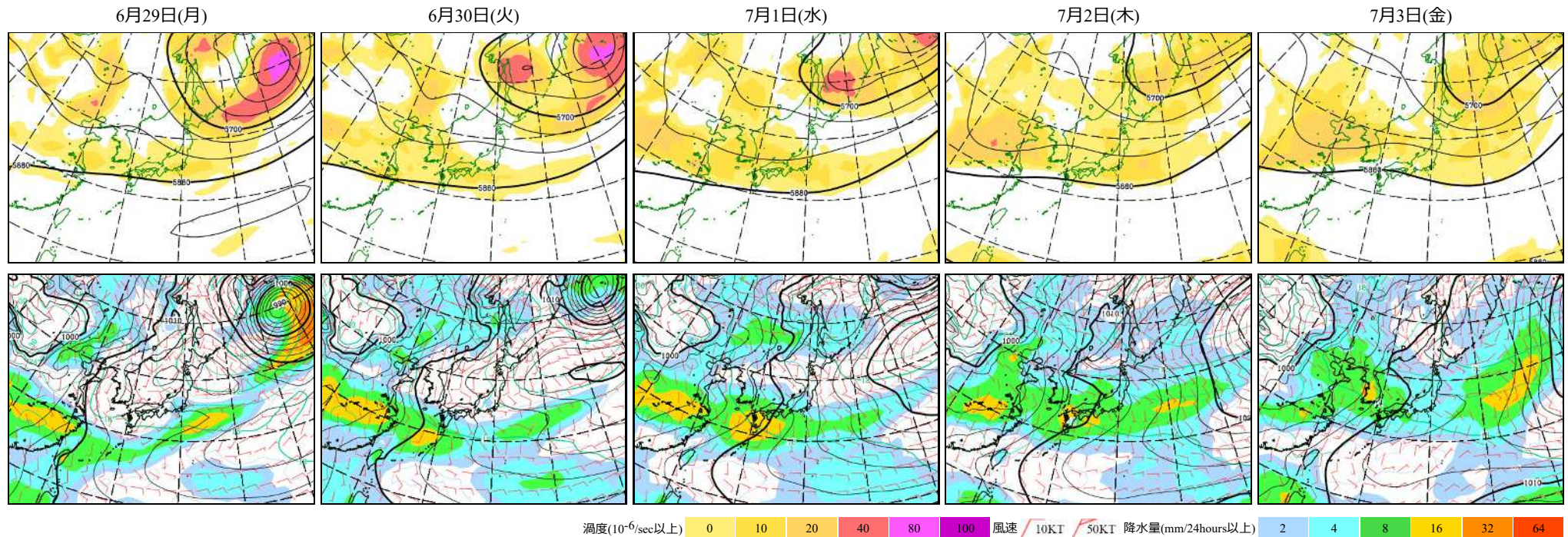
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

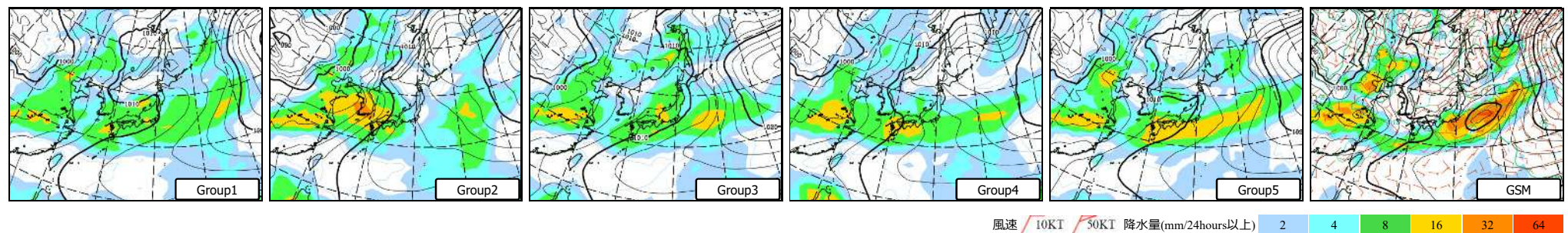


- 北日本は、曇りや晴れの日が多い。
- 東日本と西日本と奄美地方は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄地方は、29日から30日にかけて曇りや雨となる。7月1日から3日にかけては晴れる所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月2日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7月2日頃は本州付近の前線が明瞭化した。このため、東日本と西日本では降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- モデル間の差は、1日頃に北海道付近を通過するシアーや本州の南岸付近の前線の位置等にばらつきが見られる。
- スプレッドは期間の終わり頃に大きく、特に5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。